

＜被災地の学童保育の状況と支援の取り組み＞

《岩手県》 大船渡市・陸前高田市の学童保育

岩手県沿岸部にある大船渡市と陸前高田市の二つの市の学童保育（父母会委託）でつくっている気仙地区学童クラブ連絡協議会があります。

大船渡市は7か所の学童保育（すべて父母会委託、学校内公設）のうち、1か所の施設が津波の被害がありました。しかし、子どもたちは全員無事でした。現在、地域の方の好意で公民館の台所12畳ほどを借りて運営しています。しかし、児童数が25人ほどいて狭いため、今後は近くの畳40畳の集会所を借りることになりました。

ただ、その施設も床上浸水しており、畳などの修理をしなければならないとのこと。机だけは確保したが、冷蔵庫、テレビ、パソコンなどがなくて困っています。

陸前高田市は5か所の学童保育（すべて父母会委託、分割してアパート利用の施設の他は小学校内の公設）のうち、アパートを借りていた学童保育が津波に流されました。現在、分割前の学童保育と合同保育をしています。震災前に二つの学童保育をあわせて約80人いた児童は現在は40人となっています。保護者の仕事が再開できていなかったり、避難や転居した家庭があるためです（大船渡市でも児童が減っているのは同じ理由です）。

両市とも父母会運営で、保育料と市から委託料で運営されていますから、休所していたり、利用児童が減ることにより、保育料収入が減ることにより運営費が減り、指導員に賃金が払えなくなると心配されています。

全国学童保育連絡協議会では、東日本大震災学童保育義援金から気仙学童保育連絡協議会に100万円を渡し、施設の再建、運営費への援助、学童保育の備品や子どもたちの使う文房具や遊び道具などに使ってもらおうこととしています。

指導員の皆さんはみんな、ぎりぎりのところで仕事をされており、指導員のメンタルケア、指導員の支援が急務だと言われています。

《宮城県》 仙台市学童保育連絡協議会の取り組み

仙台市学童保育連絡協議会は、宮城県内の学童保育にどのような支援が必要なのか、可能なのかを検討しています。

2011年2月に全国学童保育連絡協議会と仙台市連協が合同で開催した「宮城県学童保育講座」には、宮城県沿岸部の七ヶ浜町からもたくさんの指導員の方々が参加されていました。七ヶ浜町周辺ではようやく電話が開通し、講座に来られていた指導員さんに連絡がつかしました。

七ヶ浜町の学童保育（公立公営、小学校施設内）は4月から再開したのですが、多くの指導員が被災し、退職される方がいたり、新しく指導員となる方がいたり、そのために異動もあつたりしています。まだ小学校低学年は給食が再開できておらず、子どもたちは早く学童保育に帰ってきます。被災した子どもたちへの心のケアを含め、どのように保育をしたらいいのかわからないこともたくさんあり、毎日の保育も大変だとのこと。

電話で話された指導員さんは、津波被害の大きかった地区の学童保育に勤務されていて、ご自

身も避難所生活を経験され、津波も目撃されています。大人は当日のことを話し始めると止まらなくなり、子どもたちは津波ごっこで、「高台に逃げろ！」と自分の体験を再現していたそうです。最近、学童保育でお昼ご飯を食べながら、子どもたちと震災当日、自分はどうしていたのか話していたということを、この指導員さんは「やっところまで来た」と表現されていました。

指導員を支援する必要があると強く感じています。仙台市連協として、どのような支援が必要なのか、どういう支援ができるのか、状況の把握とともに、早急に取り組みを検討していく必要があると考えています。
(仙台市学童保育連絡協議会)

*東日本大震災学童保育義援金から、仙台市学童保育連絡協議会に第一次分として100万円を届けました。宮城県内の学童保育の支援に使うために仙台市連協で使い方を検討しています。

<義援金のお願い>

被災した家庭が安心して学童保育を利用できるようにするために、子どもの心のケア、施設再建と運営再開・維持のための手だて、指導員の賃金・運営費などの確保等々、今後もたくさんの課題があります。国の責任で一日も早い復旧・復興を求めると同時に、市町村、都道府県の力も必要です。

私たち学童保育関係者も支援を行っていきます。あらためて、皆さんに義援金へのご協力をいただきたく、お願いを申し上げます。

*皆さんから寄せられた東日本大震災学童保育義援金は、**5月19日現在、970万円を越えました。**ありがとうございます。

東日本大震災学童保育義援金の振込先

銀行コード：0005 店番：351 三菱東京UFJ銀行 本郷支店 普通預金 0012273

全国学童保育連絡協議会 代表 木田保男